

## 吉野復興大臣ぶら下がり会見会見録

(平成29年8月22日(火) 1120～1127 於) 東京国際フォーラム)

### 1. 発言要旨

開会式で御挨拶をさせていただきました。そして、その後、各ブースを見学をさせていただきました。

特に、観光エリア、あとは、地元の特産品エリア、ここを重点的に回らせていただき、そのほかのところも応援をしてみいました。

岩手、宮城、福島、熊本のお米を使い、福島県の会津坂下町で造った「絆結(きゆ)」という名前の日本酒で、1杯きゅっと飲むという、そんなイメージの名前でございます。たくさんいただきました。

一番感じたところは、やっぱり民間企業が元気を出さないと、金融機関も元気が出ないということです。そういう意味で、金融機関が率先して、商談、マッチング、こういう催物をしているということは、本当に素晴らしいことだと思います。

全国の特産品、特に、アイデアがいっぱいの商品がたくさんございました。例えば、リンゴの産地で今まではリンゴを売っていたんですけど、災害でリンゴが売れなくなった。そうした場合にはそれを元にスパークリングワインを造っていくという、いわゆる災害がなければそのアイデアが出てこない。ある意味で「ピンチをチャンスに」、正に私たちが今行っている復興庁の仕事、「ピンチをチャンスに」を目標に今、復興をしているということでございまして、民間のアイデア、活力、これが復興の原動力になると、このように感じた次第です。

以上です。

### 2. 質疑応答

(問) 手前みそで大変恐縮なんですが、弊社も福島産業賞というのをやっていて、復興には産業が大事だということでやっているんですけども、今日は紹介のコーナーなどを見ていただきまして、非常にいろんな企業があるなというふうに我々も実感したところなんですけれども、復興庁として今後その産業の支援というような、生業の再生に向けての支援とか、何かそういうお考えがありましたら伺えますか。

(答) 福島については、福島特措法を改正をしました。そこにいわゆる生業の再生、産業の再生、そのための官民合同チームという、いわゆる国家でお墨付きを与えた再生をしていく、いわゆる相談窓口、きちんと作ったわけでありますので、これは農業を含めて

ですけれども、この官民合同チームが今、精力的に支援活動をしていると思います。

あと、民間の持っているアイデア、そして、それを支援する官民合同チームのノウハウ、これがうまくマッチングすれば、新しい産業が起きてくる、このように思うところです。本当にありがとうございます。

(問) 今日もいろんな新商品があつたり、復興庁の方でも例えば「結の場」みたいなもので、いろんな新しい産業といった事業がスタートしていると思います。

そういったチャンス、きっかけみたいなものはどんどん増えてきていると思うんですけれども、ここをさらに復興庁として何かもっと例えば商品を拡大するみたいな、後押しみたいなものというのは、何かほかにもう一押し復興庁としては何かないんでしょうか。

(答) 「結の場」は、大企業のノウハウを地元の企業にどう生かせるかというものでありまして、成功例もかなり地元紙の中で「結の場」を使ってこういう新商品が出来たんだという成功例もこの間、報道されております。

あとは今、復興庁でやっている仕事としては、大学生、インターンシップ、去年は20人だったんですけど、今年から100人に増やしました。夏休み100人、春休み100人、合わせて200人の大学生を各被災地の企業の中に1月くらい、入っていただいて、大学生も勉強になる。そして、また地元の企業も外部から来ますから、新たなアイデア、自分たちが気付かないところを大学生が気付かせてくれる。そんな事業も復興庁でやっておりますので、是非マスコミの方々もインターンシップ、今、募集中でございますので、今度は福島県も対象になりましたから、是非宣伝して、多くの学生たちが東北に来てくれるようお願いしたいと思います。

(問) あと、東北三県でいいますと、やはり農業というのが産業の主力の一つになってくると思います。

こうした製品の開発のまず足元にあるのが、そういった農業だと思うんですけれども、農業に関しては、例えば今年の夏の概算要求とかで何か新たな支援とか、今この復興7年目を迎えた何か新しい支援策みたいなものはお考えでしょうか。

(答) 双葉郡についての営農再開、これは多くの予算を取らせていただきました。福島県に営農再開の基金があるんですけど、今、前は二百何十億あった基金ですけど、今そこが、少なくなりました。

概算要求の中に142億という大きなお金もまた基金として、今度の予算要求として取らせていただきました。そういう意味では

営農再開、農業が福島県の場合は産業の中心だということで、いわゆる6割を営農再開でやっていくという目標を立てて、そのために必要な資金、これが142億という積算ができておりますので、それを一括して基金を増やしていく。こんな事業も要求に取り込んでいるところです。

(以 上)